

基礎情報				
事業名	精神障がい者家族ピアサポーター事業		事業総額	900,000 円
実施団体名	特定非営利活動法人岡山県精神障害者家族会連合会		補助総額	720,000 円
協働担当課名	岡山市こころの健康センター	障害福祉課	保健管理課	
連携団体名				

事業評価			
事業の目標 (提案書より抜粋)	精神に障がいを持つ当事者を抱え混乱している家族が、家族ピアサポーターとの語らいの中で、そのつらさを分かち合い、孤立防止を図り、家族の力を高めていく。また、病的には退院出来るにも関わらず、家族の理解が得られないために精神科病院に長期入院を余儀なくされている人の地域移行や、再入院を防ぐための地域定着の一助となるべく精神障がい者家族ピアサポーター活動を行う。電話相談対応した方のその後が分からないので学習会等で話し、ニーズを汲み上げていく。		
取り組み	現在(平成 28 年 9 月末)の状況	自己評価	課題がある場合、その対策
家族ほっとライン (電話相談)	毎週水曜日 10:00~15:00 8月24日付け山陽新聞にピアサポーター活動の記事が掲載されて以降、医療・福祉等どこにも繋がっていない家族からの相談が寄せられている。	電話から面接相談を経て、家族学習会の参加につながる家族もあり、複合的に家族支援の輪が広がっていく可能性が芽生え始めている。事例や増えつつある件数が実績になる。	精神障害者を抱える家族に対して、家族ピアサポーター活動の情報を届ける手段が難しい。新聞媒体等メディアの協力が必要と考える。報告会の開催の検討や、名刺大のカードの作成や配布等も検討する。
家族ほっとサロン (面接相談)	毎月第 2 日曜日 13:00~15:30	電話相談を経て、面接相談に来られる家族もあり、徐々にではあるが、新規の参加者が出来ている。一方で、安心して何でも話し合える場として、リピーターも多数おられ、同じ悩みを持つ家族が集う場所としての価値が生まれている。	
家族相談訪問活動	随時	訪問を希望する家族がいないため、評価できません。	精神障害者を抱える家族に対して、家族ピアサポーター活動の情報を届ける手段が難しい。新聞媒体のような、誰でも手に入れることのできるメディアの協力が必要と考える。訪問

			を嫌がる家庭や、電話相談対応から訪問までに時間がかかること等が考えられる。倉敷市のピアスタッフと連携しながら模索する。
スキルアップ研修	日時:12月16日(金)10:00~16:00 場所:ゆうあいセンター研修室 (兼・アドバイザー研修会)		家族ピアサポーターの基盤となる家族学習会アドバイザーを多数養成することは、家族ピアサポーターに繋がる人員を確保することに直結しているため、きちんとしたカリキュラムで行うことが重要である。

協働評価		
項目	自己評価	課題がある場合、その対策
連絡・調整について それぞれが積極的に情報を公開・共有していますか？	・今後しっかりする(けんかれん) ・ESD 市民協働推進センターが中間支援して下さって助かる(こころの健康センター)	
協働効果について それぞれが役割を果たし、相乗効果が生まれていますか？	・岡山市との事業ということで安心して来られる方が増えた ・窓口が広がった。電話相談対応してもまだお困りの方にはこころの健康センターや病院の受診をおすすめしている。	
関係性について それぞれが対等な関係のもとで事業が進められていますか？	はい	
目的共有について 次年度以降の事業展開について協議・共有されていますか？	はい	

実務評価			
項目	自己評価		「していない」場合、その対策
収入・支出に計画からの大きな変更は発生していませんか？	<input type="checkbox"/> している	<input checked="" type="checkbox"/> していない	
収入・支出を記録するとともに 証明書類を保管していますか？	<input checked="" type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない	
事業の成果が記録・整理され、 成果物が保管されていますか？	<input checked="" type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない	

その他	
ESD・市民協働推進センターへの要望や 特記事項があればご記入ください。	

中間評価は以上になります。ご協力ありがとうございました。